

あしたかヘルパーは  
定期巡回随時対応型訪問介護看護をはじめました！  
～在宅生活を支えるために～

あしたかホーム巡回型ホームヘルプサービス

## 令和5年4月より定期巡回随時対応型訪問介護看護がスタート

法人として24時間の在宅医療・介護の体制を確立していく  
為に、令和5年4月より定期巡回随時対応型訪問介護看護  
を開始しました。

沼津市では3事業所目となるこの新事業の特性や良い点・  
難しい点を事例を紹介しながら行なっていった経緯をお伝え  
します。

## 通常の訪問介護

利用者のニーズに合わせて  
曜日・時間を決めて訪問をしている

## 定期巡回サービス

予定は立てるがプラス随時での  
訪問が可能で

**24時間365日**利用が出来る

利用対象者は要介護1～5の方

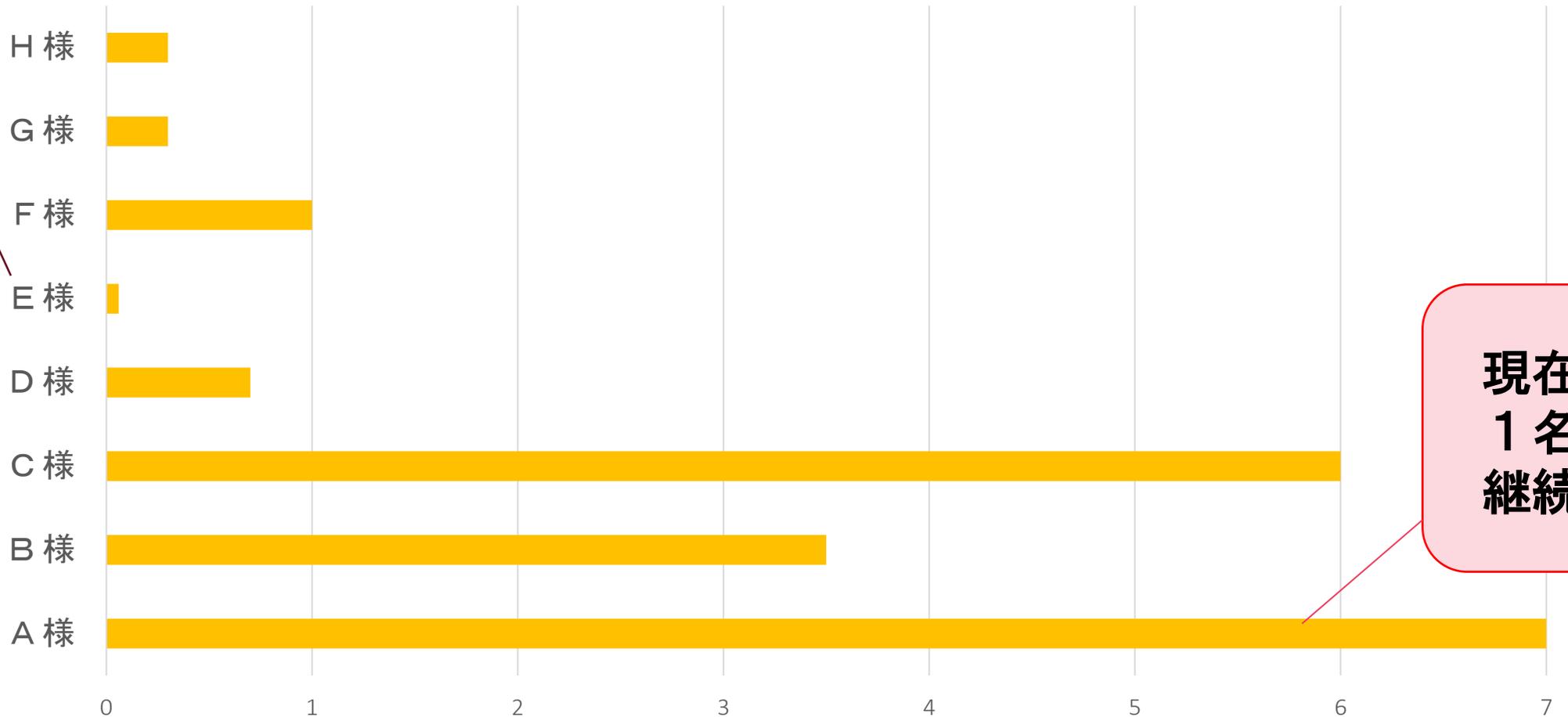
# 定期巡回随時対応型訪問介護看護のメリット

- ・自宅での生活を出来るだけ長く続けていくことが出来る。
- ・退院後や退所後の在宅復帰が円滑に安心して行なえる。
- ・利用料金が定額制で、従来の訪問介護にある「2時間を空けなければ次の訪問に行けない」というルールに縛られずに随時の対応が出来る。
- ・状態変化の著しい方や安否確認が必要な方の見守り支援が行なえる。
- ・緊急時に24時間対応してもらえる安心感が得られる。

# 定期巡回随時対応型訪問介護看護の利用期間

令和5年6月～令和6年3月現在までに計8人が利用

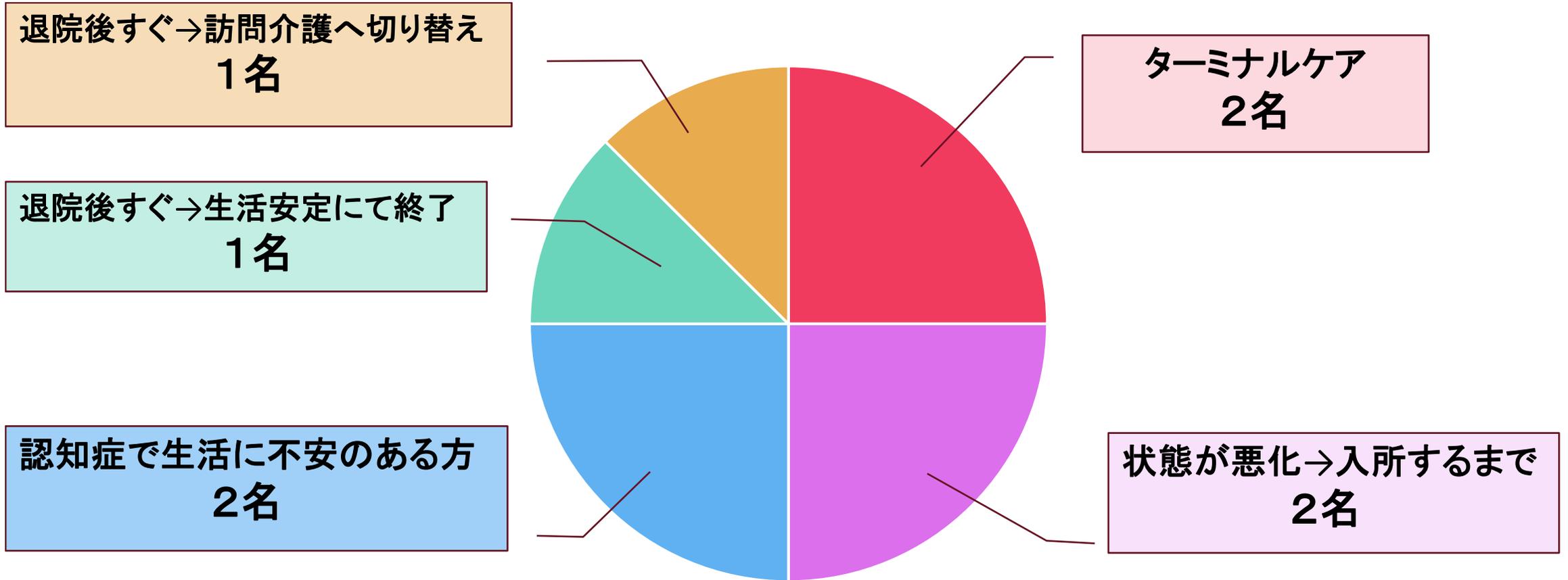
■ 利用期間(1か月単位)



最短利用は  
ターミナルで  
4日間

現在は  
1名が  
継続中

# 定期巡回随時対応型訪問介護看護の利用者内訳



- ターミナルケア
- 状態悪化で入所するまで
- 認知症で生活に不安
- 退院後～生活安定にて終了
- 退院後～訪問介護へ切り替え

# 研究目的

定期巡回随時対応型訪問介護看護を  
理解し、在宅での生活が継続できるように  
支える

# 事例①

## 認知症により生活に不安がある方のケース

A様 女性 87歳 要介護1

既往歴：認知症、糖尿病、高血圧症

ADL：自立 認知機能低下。 独居。

- ・令和5年6月からヘルパー利用開始。
- ・糖尿病の薬が飲めずに服薬管理が必要な状況。
- ・キーパーソンの姪が県外にいる。
- ・区分変更し要支援2→要介護1となり令和5年7月～定期巡回を利用。
- ・支援内容は週3回で服薬と体調確認、掃除洗濯、ゴミ捨て。

※なお、プライバシーの保護の為、一部の記載内容に対して論旨に影響しない程度の変更を加えた。

## ある事件がきっかけで…

- 令和6年1月の受診時にもらってきたはずの薬を失くしてしまう事件が起きた。
- 受診はいつも一人でバスに乗って出かけて帰ってきている。
- A様は薬を失くしたことにショックを受け、あちこち探したり思い出そうとしたが見つからなかった。

# 不安が強くなり毎日ヘルパーにコールがある

- ・薬を失くしてしまった事件がきっかけで不安が大きくなり、毎日コールが来るようになった。
- ・A様の中で「失くなった」という思いが強くなって  
「通帳と印鑑がない」「財布がない」「来てください。」  
「一緒に探して、困ってるんだから！」と毎日イライラしている様子。
- ・その都度コール対応し、訪問をして一緒に探す支援を行う。
- ・薬に関しては同じ法人の訪問看護と連携しており、何かあれば直接施設内やLINEでの連携がとれて情報共有できる体制が整った。

# 定期巡回で柔軟に対応したことで状態が安定した

- ・不穏な気持ちのA様は、少し落ち着いていてもまた不安になるとコールをされ「来てください！」とその時は訴えるが、訪問しても「何を頼もうとしたか忘れた」と言われることもあり・・・
- ・訪問して探し物が見つかるるとまた落ち着くということをほぼ1ヵ月間繰り返した
- ・結果的に1ヵ月の頻回な対応で気持ちが落ち着き、探し物の不安から解放されたかのように今は**穏やかに生活**されている。

# 1月の訪問回数と通常の訪問介護との算定の差について

## 定期巡回 1月訪問回数

定期訪問	14回
随時訪問	19回
コール回数	32回

多い時には一日に9回のコールがありました

**訪問トータル回数 33回**



(要介護1)

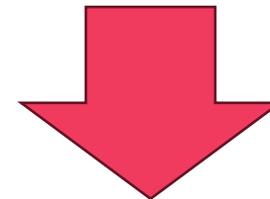
訪問回数に関わらず料金は定額

**5697単位**

## 訪問介護として算定した場合

身体01	身体1	身体2	身体3	身体4
3回	6回	23回	0回	1回
501単位	1500単位	9108単位		663単位

※二時間ルールを適用しないで算定した場合



倍近くの算定となります

**11772単位**

## 事例②

# 末期のがんで自宅にて最期を迎えられたケース

B様 男性 76歳 要介護2

既往歴：末期の直腸がん（ストマ装着）

尿路感染症（バルーンカテーテル留置）

妻と長男夫婦、孫と同居。妻は仕事のため日中は独居が多い。

・介入時はご自分で歩行でき、食事も自力摂取できていたが、

家族の不在時に転倒やストマの管理などの不安があり、令和5年10月より定期巡回で利用開始。往診と他事業所の訪問看護を利用されている。

・支援内容はストマの便破棄、カテーテルの尿破棄と陰洗、食事準備と貼り薬の補助が中心だった。

※なお、プライバシーの保護の為、一部の記載内容に対して論旨に影響しない程度の変更を加えた。

## サービス介入時の週間スケジュール

ストマの便破棄に困ったと本人からコールがあるとすぐに対応し、早朝や夜間の医療的ニーズには訪問看護が対応していました。

	月	火	水	木	金	土	日
8:00~							
9:00~	訪問看護 (他事業所)	ヘルパー	ヘルパー	訪問看護 (他事業所)	ヘルパー		
10:00~						ヘルパー	ヘルパー
11:00~							
12:00~							
13:00~	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー
14:00~							
15:00~							

## 状態悪化後の週間スケジュール

滞在時間を長くし、訪問看護と時間を合わせての対応も行ないました。  
臨機応変な対応は通常の訪問介護では出来ないもので、B様に合わせた支援が出来ました

	月	火	水	木	金	土	日
8:00~							
9:00~	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー
9:30~10:30	訪問看護 (他事業所)			訪問看護 (他事業所)			
11:00~							
12:00~							
13:00~							
14:00~	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー
15:00~15:30							
16:00~							

# 状態変化～最期の時

- ・1月16日の夜、壁が二重に見えたり人が何人か見えたりとせん妄が出始る。気持ちが大不安定になり、奥様にも「死ぬのが怖い」と訴えていた。
- ・亡くなる3日前、奥様が「お風呂に入れてあげられなかった」と泣いていた為、訪問看護とヘルパーで全身清拭を行ない、その後ヘルパーも2人対応で支援に入った。
- ・1月29日の早朝、ご家族に見守られながら息を引き取られた。奥様からは「もし入院してコロナ禍だったら孫たちにも会えなかった。在宅で看取れて本当に良かった」とのお言葉があった。

# 1月の訪問回数と通常の訪問介護との算定の差について

## 定期巡回 1月訪問回数

定期訪問	62回
随時訪問	0回
コール回数	0回

1月はコール0回でしたが10月3回、11月2回  
12月に3回のコールがありました

訪問トータル回数 62回



訪問回数に関わらず料金は定額

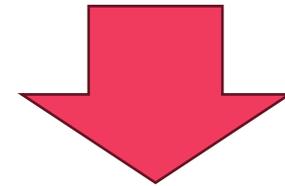
10168単位

(要介護2)

## 訪問介護として算定した場合

身体01	身体1	身体2	身体3	身体4
2回	7回	36回	12回	1回
334 単位	1750 単位	14256 単位	6948 単位	663 単位

※二時間ルールを適用しないで算定した場合  
※身体2の二人対応4回含む(3484単位)



約1.7倍の算定になります

27435単位

# 研究の成果と評価

- 通常の訪問介護の場合、困った時にすぐ来てもらうという訪問が出来ない。
- 定期巡回の場合はコールにより随時の対応ができ、本当に必要な支援にプラス $\alpha$ の支援が出来る事が最大のメリット。
- 利用者や家族にとっても、「コールをすれば来てもらえる」という安心感が得られ、希望する在宅生活を継続していくことが出来る。
- 利用者の環境やニーズに合わせて支援ができるのは、在宅生活をよく知るヘルパーならではの対応力が活かされる優れた点。

# 今後の課題

- 定期巡回の事をまだ世間一般的に浸透されていないのが現状。
- 1か月の単位数が通常の訪問介護より高く設定されているので、月額料金が一見高く見えてしまうことがデメリット。
- 訪問看護も定期巡回の単位数になるので、理解した上で連携していかなければいけないことも難しい点。

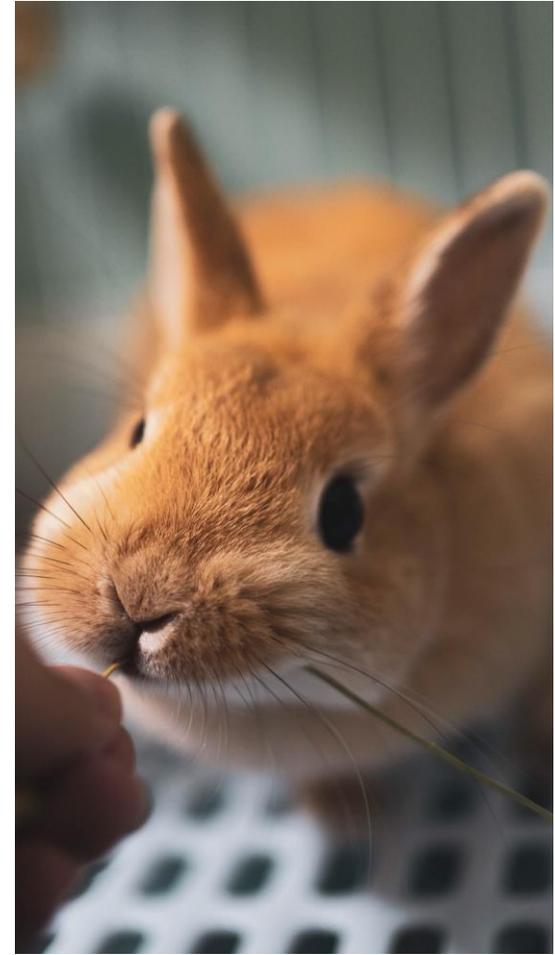
# 今後は・・・

今回定期巡回を利用された方やご家族は、金額以上に安心感と満足感を得られたと実感している。

私たちはこれからも利用者の

「いつまでも住み慣れたこの家にいたい」

という希望を叶えるために力を尽くしていきたいと思えます。



ご清聴ありがとうございました